

第 37 回「思い出と明日」(2013/9/22)

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター「セ416」(参宮橋)

司会、文責：野田

参加者：23 人

要約：多くの人にとって、後々辛い思い出になるような深刻な状況を、前向きに受け止めた人がいたという話と、昨日の出来事は思い出ではないのはなぜかという話から、思い出はいつ、どうやって出来るのか、どういったきっかけで変わるかについて議論しました。

内容：

1. お題の説明

- ・ 「さろん」の三周年記念イベントの一つとしての今回の哲学カフェ開催を踏まえて、周年記念(アニバーサリー)にふさわしいお題をスタッフで検討したところ、過去と未来についてのお題はどうかという提案がありましたので、このお題にしました。「明日」とありますが、象徴的な意味での明日であり、今日の次の日、翌日だけに限定されるわけではなく、今より先のこと全てを指し、一般的な言葉としては将来や未来に対応します。

2. 思い出とは何か、どうやって出来るのか、出来ないのか

- ・ 思い出は、記憶や過去と違って、感情を伴うもののように思われる。記憶は味気なく、いってみれば白黒のフィルムのようなもの。思い出は色がつく。
- ・ 実際に体験する際に、注意の焦点が関心を持つ対象へ無意識に移る。そうして得た情報から生々しい感覚が得られ、徐々に抽象度が増えた反応をして、意味が加わる。
- ・ 思い出はポジティブ。交通事故にあったという(ネガティブな)ことは経験、過去であり、思い出では言わない。積極的に思い出せるのが思い出。
- ・ (直前の意見を受けて)思い出というと楽しいものを先に思い浮かべるが、辛い思い出というものもある。
- ・ 受け止めきれない経験をすることがある。自分のこれまでの体験や考え方や感じ方とは正反対のことであると、経験を受け止めて、思い出にすることが出来ない。自分というものはこれまでの思い出の積み重ねで出来ているが、思い出の積み重ねに組み入れることが出来ない。
- ・ どうでもいいことを覚えている。思い出せない過去がある。記憶が戻ってくることがある。自分の気持ちで制御しきれない側面がある。
- ・ 昨日は思い出とはいいいにくい。現在から少し離れた時点で、気持ちの中で感情や解釈と結びついて整理されて思い出になる。
- ・ 過去を思い出さないと、過去はなくなってしまふ。過去をなくさないために思い出を振り返る。

- ・ 思い出を振り返るとき、感情に浸ってしまう。辛い思い出に浸ることで自分を傷つけるようなことは避けるべきだ。
3. 思い出が変わる
- ・ 思い出に伴う意味が変わることがある。喧嘩していた知り合いと何とか仲良くなった場合、見方が変わっていい思い出になる。
  - ・ 現在からみた過去について、思い出がある。過去には、同じ状況に関して、当時の自分が別の解釈をしている。過去の自分はどこにいったのか。
  - ・ 耐え切れない思い出について折り合えるようになるのはいつか。
    - ・ 過去を思い出すときに、選別して自分と統一する。
    - ・ 良い解釈をし、思い出を変えることで自分を作る、自分を変えられる。
    - ・ 今の自分が同じ体験をした場合、過去とは違うように感じられたら、自分が変わったことになる。
    - ・ 過去の判断基準を積み重ねて、今の自分がある。判断基準の積み重ねは急には変わらず、徐々に変わる。
    - ・ 多くの当事者が辛いと感じた事件について、一人だけ前向きに受け止めたことがあった。同じような状況でも、受け止め方が人によって異なる。
    - ・ 過去を客観的に見えるようになると、意味が変わる。
    - ・ 精神が未熟であると、客観的に振り返ることが出来ず、過去を生きることになる。
    - ・ 体験した記憶は変えられない。記憶に対する理解を変えることが出来る。
    - ・ 別の文脈においたり、視点を変えたり、距離を置くことで思い出が変わる。
  - ・ 三ヵ月後に結婚する人と、(その時点では) そうとは知らずに今日出会ったとする。今日出会った思い出は今日作られるのか、三ヵ月後に作られるのか。「今日その人と出会ったということに関する思い出は今日作られ、結婚することがわかった時点で、出会った人が結婚する相手であると分かったという思い出が作られる」という考えと、「結婚することが分かった段階で、今日結婚する人と出会ったという思い出が作られる」という考えの間で議論がありました。
4. 思い出と明日
- ・ 平均寿命を日数にすると大まかに3万日である。27歳で1万日、55歳で2万日生きたことになる。若いときは明日の方が思い出よりも多いが、年を取ると共に思い出の方が多くなる。
  - ・ 今と過去の関係は、明日と今の関係と一緒にある。過去が今を決め、今が未来を決める。現在が過去の意味づけを変えることが出来るように、未来は過去の意味づけを変えることが出来る。

三周年記念イベントである文化祭の一つのイベントとして開催しました。このイベントの

数十分後のパーティで、さろんの三年間の活動を振り返った映像を参加者とともに鑑賞しました。主催者側としては、参加者の方が映像を見ながら、哲学カフェで得た何かを振り返えられたことを期待しております。「過去がないことはありえるか。」、「過去の思い出が実際にあったかどうかを、証拠や他人の記憶に頼らずに判定することはできるか。。」という問いが参加者から提案されました。機会があれば取り上げたいと思います。